

## 一刻も早い事故の収束を！ 原発労働者への激励を行う

8月4日、淵上委員長と高山法対・調査部長は、東京電力労働組合及び関東電力関連産業労働組合総連合を激励訪問しました。JR東海労は、同じ労働者として、福島第一原発事故の収束のために、命の危険を顧みずに懸命に働いているJビレッジなどの労働者に激励物資を届けるため、この激励訪問を行いました。

東電労組からは、一刻も早い事故の収束に向けて最大限取り組んでいることが報告されました。

一方、事故発生直後の3月17日、菅首相が緊急作業時の被ばく線量の上限を500ミリシーベルトにする意向を示したことが報じられました。被ばく線量の上限は当初100ミリシーベルトでしたが、3月14日に250ミリシーベルトに引き上げられたのです。500ミリシーベルトでは、ガンの発生リスクが急に高まることが



言われています。原発労働者の安全のためには、被ばく線量上限の引き上げは絶対あってはなりません。

政府は、  
被ばく線量の  
上限引き上げを  
止めろ！  
原発労働者の  
安全のために、